

プロジェクトコンサルタント



メインコンサルタント
アラン・マックダーモット

アグリビジネスマネージャー (ANZCO FOODS)
NZ 国内外で多数の羊、肉牛プロジェクトに関り、生産～
流通まで一貫したアドバイスが可能



コンサルタント
ガビン・シース

草地農学博士・農業コンサルタント
創地農業 21 顧問
グラスファーマーミングスクールの講師として毎年日本に訪問



ニュージーランド 北海道 羊協力プロジェクト



New Zealand Hokkaido
Sheep Cooperation Project

協 力

北海道、北海道めん羊協議会

お問い合わせ

ファームエイジ株式会社 北海道石狩郡当別町字金沢 166-8
TEL : 0133-22-3060 FAX : 0133-22-3013 担当 : 高田



プロジェクト概要

1. ニュージーランド政府、アンズコフーズ、ファームエイジが主体となりプロジェクトを執り行う。(資金提供含む)
2. 北海道から3軒のひつじ牧場を選出し、1年目は課題の抽出など調査分析を行い資料としてまとめ、2年目で技術的な協力を行う。
3. 北海道産ひつじ(グラスフェッド)の国内およびアジアへ向けたマーケティングを行う。
4. 上記2,3に必要なエキスパート(コンサルタント)をニュージーランドから北海道へ派遣する。
5. 北海道庁と協力体制(連携)をとり、このプロジェクトを行う。

モニター農場



1. 茶路めん羊牧場
(北海道白糠町)



2. 松尾めん羊牧場
(北海道滝川市)



3. えこりん村
(北海道恵庭市)

モニタリング以外の取り組み(ディスカッションなど)を実施予定(未定)

プロジェクトビジョン

- ・現状の課題解決に貢献し、現在ある北海道のひつじ牧場に貢献する。
 - ・北海道のひつじ産業創出に貢献する。
- *10,651頭(2015年) → 100,000頭(2028年)
約5-10億(2015年) → 約100億(2028年)
*1頭10万換算

「課題1: 種畜供給体制が確立されていない」

(可能性)

- ・高額な生体輸入 → NZから共同輸入
- ・日本政府とNZ政府の協約
- ・NZの高度なAI技術支援

「課題2: 飼養衛生管理技術(特に寄生虫対策)」

(可能性)

- ・REFUGIA(寄生虫薬害耐性)の技術支援

「課題3: 放牧によるメリットが活かされていない」

(可能性)

- ・REFUGIA導入 → 放牧可能
- ・粗放牧 → NZの高度な放牧技術導入

「課題4: 北海道産ひつじ、グラスフェッドの付加価値が認知されていない」

(可能性)

- ・北海道のイメージをNZ式放牧で活かす
- ・しっかりとしたマーケティングを行い、北海道産グラスフェッドを活かした北海道ブランドをつくり、国内およびアジアに輸出

プロジェクトチーム



ニュージーランド大使館



アンズコフーズ



ファームエイジ